

戻り橋（弓場直彦）

月に 雲あり 花に 風

桜 月夜や 面白し

酔いに まかせて 美女を 背に

渡る 一条 戻り橋

雲 吐く 月は 玲瓏と

水面に 映す 夜叉の 顔

すわと 悟れど 大豪の

綱の 歩みに 乱れなし

引き 抜きざまに 投げ 打てば

宙に 返りて 被衣 飛ぶ

本性 忽ち 茨木の

阿吽の 呼吸 物凄し

真向 微塵と 振る 鐘木

交わす 紫電の 鞘 走り

妖怪 嗤ふか 勇士が 勝つか

時しも 雲が 月を 呑む

解説 一条戻り橋で渡辺綱が鬼の茨木童子に襲われる物語を詠った詩。

語釈 ※戻り橋Ⅱ京都市上京区、堀川にかかる一条戻り橋のこと。黙阿彌作詞。明治二十三年歌舞伎座初演。渡辺綱が、一条戻り橋で美女に化けた愛宕山の鬼女と道連れになるが、間もなく彼女の正体を見破ってその片腕を切る。※玲瓏Ⅱ明るく光り輝くさま。※水面Ⅱ※夜叉Ⅱ容貌・姿が醜怪で猛悪な鬼神。※すわⅡ突然の出来事に驚いて発する語。さあ。あつ。「すわ一大事」※大豪Ⅱ偉大な豪傑。※綱Ⅱ源頼光に仕え、頼光四天王の筆頭として剛勇で知られた渡辺綱のこと。大江山の酒呑童子の退治や、一条戻り橋の上で鬼の腕を源氏の名刀・髭切りで切り落とした逸話がある。※被衣Ⅱ女性が外出時に顔を隠すため頭からかぶった衣。※阿吽の呼吸Ⅱ二人以上が一緒にある物事をする時の、相互の微妙な調子、また、その間合いを巧みに掴むこと。※微塵Ⅱ物が割れたりして、非常にこまかくなること。※鐘木Ⅱ突棒の異称。※紫電Ⅱ紫色をした電光。※妖怪Ⅱ平安時代に大江山を本拠に京都を荒らし回ったとされる「鬼」の一人。茨木童子のこと。

通釈 月が雲に隠れ、風で花が散る夜は楽しい。渡辺綱は酔いに任せて美しい女と一條戻り橋を渡っている。ふと水面を覗くと自分の隣りの女の顔が夜叉の顔であった。あつと悟った綱は豪傑だった。歩きに全く乱れがない。引き抜きざまに女を投げ打った。宙に飛んだ女の体から着ていた衣が飛んだ。その女は本性を現し、大江山の鬼の茨木童子であった。両者の阿吽の呼吸は物凄く、童子は鐘木を真つ向に振りかざす。一方の綱は源氏に伝わる名刀・髭切りが燦めく。この勝負、童子が勝か、綱が勝か。天空は雲が月を呑み、辺り一面の闇となった。

（この勝負は茨木童子が空に舞い上がり逃げ、勝ち負け無しであった）